

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104898		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グル-プホ-ム ひなたぼっこ・高陽		
所在地 (電話番号)	広島市安佐北区落合七丁目10-20 (電話) 082-841-5670		
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年5月26日	評価確定日	平成21年6月8日

【情報提供票より】(21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	12.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	軽量鉄筋平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実施 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	370 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	16 名	男性 0 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 85.2 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上原内科クリニック・コムラ病院・倉掛歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひなたぼっこ・高陽」は、(株)ひょうまの介護事業部として広島市内で4番目に開所され、ホームの建物は地域の中に溶け込んだ理想的な平屋建てで、共用空間や居室は本人にとってのなじみの環境作りとなっており、開放的な広いウッドデッキも備えている。入居者の方々が、1日の多くを安心してつづられる居心地のよいリビングは、ゆったりとしたスペースが確保されており、そこでは多くの入居者の方々が率先して料理の下ごしらえや、盛り付け・配膳・かたづけなどを日課として楽しく行われている。その様子は、出来ることへの喜びや張り合いにつながっているようであり、入居者の方々が本人らしい力や姿を引き出されている。常日頃から、管理者と職員はともに従来からの介護を少しずつ改善して、入居者の希望に一步步近づけることに取り組みされており、このことは入居者と家族への安心と信頼につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>所轄の市の担当者や窓口に対して、必要な報告や相談はおこなわれているが、両者の関係作りは若干機械的・形式的なものにとどまっているようである。今後は、今以上に積極的に質問や相談及び連絡・行き来する機会を多くしながら、協働関係を築き、サービスの質の向上に結びつくように、引き続き努力されることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>もっと良くしたい、もっと徹底したいと言う、ホ-ム長の改善への熱い思いにより、客観的には"出来ている"と評価される項目を含めて、ほとんどの項目が要改善事項として自己評価されている。より完璧にとの思いは大切にしつつ、課題を整理し、優先順位をつけ、メリハリをもって、ひとつづつ着実に取り組むことを期待します。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に開催されているが、形式的になりがちにならないようしながら、開催がサービスの質の向上に結びつくことが期待されます。そのためには、形式にとられない独自のテ-マや運用等の工夫が必要です。また、所轄の市及び地域包括支援センターの職員や民生委員の人たちの参加はありますが、地域との連携を今以上に深めるためには、町内会長や地域住民の代表の方の参加を粘り強く呼びかけていくことを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の方々の日々の暮らしぶりは、月に一度担当者が作成しているお便りの"ひなたぼっこ"により家族に伝えられている。医師の定期診察後には情報を家族に連絡し、家族の不安の解消を図っている。また、アンケートによる家族の率直な意見を出来るだけ多く得ながら、それにもとづいての対応も実施されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホ-ム開催の"ひなたぼっこ祭り"には、50人を超える地域の方々の参加があった。また、とんど祭り等の地域の行事にも積極的に参加しており、ご近所からは旬の野菜や花の差し入れがあるなど、日常的な交流も出来ている。引き続き地域との交流が深まることを期待します。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念を、更に具体化するために全職員が話し合って事業所独自の理念と目標を策定している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホ - ム長が自らが率先しながら理念の実現に向かっての取り組みを、職員とともに取り組まれている。このことにより、職員全員が理念の具体化を支援の指針として、介護サ - ビスの質の向上に努力されている姿勢が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し地域の行事に参加しているが、昨年度は事業所の都合等により若干参加される機会が少ないようであったが、今年度からは積極的に参加出来る体制の構築が出来ており、今以上に地域との密接な交流が期待できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホ - ム長から、全職員に自己評価及び外部評価の目的や意義についてよく伝え、今回の自己評価は全職員で取り組まれた。また、外部評価はその結果を踏まえて、具体案の検討や実践につなげるための努力をおこなわれている姿勢が伺えた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は若干運営推進会議が形式的に行われた感じではあるが、今年度からスタッフも充実して有意義な運営推進会議の開催が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年度も市の担当者と関わる機会が少なかったが、今年度は情報を早く入手して市の主催する行事等に積極的に参加することにしており、連携強化やサービスの質の更なる向上が期待できる。		昨年に引き続き、今年度も市担当窓口や職員との連携強化に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の方々の笑顔いっぱいの写真を中心にした、ひなたぼっこ通信を毎月発行し、担当者が本人の近況を一筆添えて送付されている、また、緊急時には電話等で詳細に報告をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、ホ - ム長や職員で話を聞く機会を作っている。また、母体組織から年1回家族宛にアンケートを実施して、家族等からの意見を取りまとめて運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の異動は行われていない。やむを得ず交代する時には、入居者との関係を重視して、引継ぎ期間を十分に取るなどの配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修情報を早く入手して、職員の能力に応じて研修に参加出来るように取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークには加入しているが、現在あまり参加出来ていない。今後は、積極的に交流に参加するための対応を検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には、まずホ・ムの見学から始めてもらうことから始め、2泊3日の体験入居を行うなどしながら、ホ・ムの生活に馴染んでいただき、家族の方からも生活歴など十分に聴き取り、本人に不安を与えないような配慮をおこなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に自分の目で入居者の喜怒哀楽を素早く的確にとらえて、一緒に生活するなかでお互いが感謝の気持ちで、またお互いが学びあう気持ちで支援に取り組まれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の関わりの中で、入居者の希望や意向を把握し、一人ひとりのペースに合わせてながら支援をおこなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の一方向的な視点からの介護計画ではなく、入居者や家族及び関係者からの要望をよく聞きながら、必要な支援を組み込んだ介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月と基本的な期間を設けて介護計画を策定するが、入居者の家族等の要望や変化が生じた場合には、実情に即したケアにつながるように、随時介護計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じて、最善のケアにつながるよう柔軟な支援体制が確立されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1～2回の定期的な指定医の往診が行われている。また、入居者や家族の希望があれば、家族の方の同伴でかかりつけ医での受診がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来看取りの経験は無いが、重要事項説明書・契約書に重度化した場合の看取りの対応等が説明されている。今後、重度化や看取り対応についての事業所が対応しうる最大のケアについての検討が望まれる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃から入居者の尊厳を守るために、言葉使いやプライバシーにも注意しながら支援がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調や希望等を把握し、職員や事業所の都合ではなく入居者一人ひとりのペースや希望に沿ったきめ細かな支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを大切にして、ホム長と全職員が当番で入居者と一緒に料理をつくり、同じ物を食べながら楽しく和やかに食事ができる雰囲気となっていた。また、一緒に後かたづけ等も入居者と職員の見事な連携のもとで行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望や状況に応じた入浴支援がなされている。また、入浴に際しては健康チェックを行い安全な入浴がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが何が出来るかを見極めながら、全員が何らかの役割を持ち楽しく暮らせるような支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	素晴らしいウッドデッキがあり、自由に気分転換や日光浴をおこなったり、本人の気分や希望に応じて、近隣の散歩や買物に職員とともに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホム長以下全職員は鍵をかける弊害はよく理解したうえで、現在は家族の同意を得ながら入居者の安全を優先して玄関は施錠しているが、今後は入居者の状況を見ながら鍵をかけないケアに取り組むようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアルも整備されており、定期的な避難訓練も消防署立会いで行われている。また、早い機会にスプリンクラ等の設置の検討も行われている。		夜間の災害対策については、運営推進会議等を通じて協力を今以上に呼びかけて支援体制の整備を図られることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの介護記録により摂取量は把握され適切に管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホ - ムの建物は新しく、共用空間も広くゆったりと過ごせるようになっている。また、季節感のある飾りや、ホ - ム内の行事の写真等も掲示されおり、和やかな空間作りが出来ている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族の希望を取り入れて、今まで使い慣れた好みの品などを持ち込んでもらい、本人が居心地良く暮らせる工夫がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ 高陽

評価年月日 平成21年4月30日

評価年月日 平成 21 年 4 月 30 日

記入者 職 ホーム長 氏名 福本 浩二（高陽）

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作っている。	状況に応じて、地域密着型サービスとしての理念をさらに良いものとしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はファイルにも付けており、常に目につくようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	行事は行っているが、理念を知っていただくという面はまだまだ不十分である。	今後、まだまだ地域の方についてはひなたぼっこのことを知っていただく機会を作っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方には必ずこちらから挨拶するよう心がけている。また隣には畑があり、よく野菜をいただくなどの交流がある。	今まではご近所の方からいただくことが多かったが、こちらからも何かできることを考えたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地区の行事案内もいただいている。敬老会、とんど、祭りへの参加をさせていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の実施。地区の方との情報交換を行っている。徘徊時の対応等。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まだ評価から具体的な改善を行うことが十分できていない。		意義をもっと理解し、今後取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方から会議の場で意見をいただき生かすようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今は機会がない。		今後は機会を作って生きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	十分ではない。		今後、研修会への参加など機会を作っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時々ミーティングで話をし、虐待はいけないという意識付けをしている。		今後、研修会への参加など機会を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書の内容をきちんと説明した上で契約を交わすようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の中で要望や不満がないか、伺うようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回ホームより家族宛にお便りを送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に話す機会を作っている。また年1回家族へアンケートを実施している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回職員ミーティングを行っており、意見交換をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>無理な体制とならないよう勤務シフトを調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員の異動は行わないようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務との兼ね合いでなかなか難しい面もあるが、できるかぎり研修に参加していくよう取り組んでいる。	今後、職員に応じた研修会の参加の機会を作りたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会の時にはできるだけ関係を築けるようにしている。	ネットワークをさらに広げていかねければならない。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に話をする機会をつくり、悩みがないか聞くように努めている。	今後も取り組んでいきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に数回は必ず職員と面談を行い、職員の希望を聞いたり、評価するようにしている。	今後も取り組んでいきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い、本人の状態、ニーズの把握を行い、また契約までに体験入居も実施している。	面談での聞き取り、把握の精度を上げる。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い、ご家族の状況、要望を伺うようにしている。	面談での聞き取り、把握の精度を上げる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なニーズによっては他サービスの紹介も行うようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居契約までに体験入居（おためし）を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の知識や経験を尊重し、自分でできることは可能な限り自分でしてもらうようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へも日々の様子や変化を確認してもらうようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会への参加、家族で外食をされるなどの機会はある。		今後、もっと機会を増やしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方には継続して訪問していただくよう案内している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を考慮し、状況に応じた対応や、声かけを行うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時にはその時に適した転居先を探し、退居後も話が あれば相談するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で要望や不満がないか、伺うようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の中で伺うようにしている。		家族の面会時などもっと情報を得るようにしなければならない。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の変化、状況の把握、月に1回はミーティングで話し合いを行っている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者主体のケアプランとなるよう意識して作成している。		もっとニーズの深堀り、関係者を含めたプランを作成する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に必ず見直しを行い、また状態の変化のあったときには随時見直すようにしている。		もっと細かく見直しを行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々状態、変化の記録は行っている。		見直しのために記録とプランをもっとリンクさせなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	幅広い支援を行う必要あり。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防と連携しながら、避難訓練を実施、民生委員と適時情報交換を行っている。		他の機関との連携も行っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ本人、家族の希望するサービスを提供するようにしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ、相談、援助を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医、受診体制について説明し、状態により受診を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医との連携により、必要な診察を受けられるよう援助している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医の看護師、また看護職員と相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	そのときの状態、今後の回復状況などを確認し、基本的にはホームに戻るよう調整を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時から重度化した場合の話をするようにしている。またその状態になったときには必ず方針を決める話し合いの場を持つようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで対応困難となった場合には、状態に適した場所を協力医とも相談しながら探すようにしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必ず話し合いを行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を尊重し、対応するよう心がけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々、本人の願望や思いを伺おうと接するように心がけている。	本人の希望や思いをできる限り、かなえられるよう努力していきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り個々のペースを大切にし、対応するようにしている。	本人の希望をひとつでも多くかなえられるようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々心がけている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理等できる方、好きな方はできるだけ一緒にしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面や他の方との兼ね合いの中でなかなか日常的に行うことは難しい面もあるが、飲み物を選んでもらうなどの機会は作るようにしている。	できる限り支援はしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方は排泄チェック表を活用し、パターンを知るようにしている。安易に紙パンツ、パットに頼らないよう気をつけている。		今紙パンツ、パットを使用している方が使わなくても良くなるようにしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3～4回は入浴を行い、必ず本人の意思を伺ってから行うようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できる限り個々のペースを大切に、対応するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人できることを見極め日常の中でそれぞれ役割をもってもらっているようにしている。		全員が何らかの役割を持てるようにしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方はお金を持ってもらい本人の自由で使ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員体制もありなかなかすべての希望に沿うことが難しい。		できる限り努力していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今までは全体での外出企画が主で個別での企画は少なかったが今年度より個別外出の機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには対応するようにしている。		家族の協力を含め回数を増やすなどしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、リビング、個室などでゆっくり過ごしていただけるよう気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、身体拘束は行わないと意識して入居者の方と接するようにしている。		研修会等の参加は行っていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、安全面への配慮から玄関は施錠している。		日、時間帯によって可能な時は開放できるようにしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在は常に把握するようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の認知症の度合い等に考慮し、判断している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの状態のみきわめをしっかりと行い、必要な援助を行うようにしている。また避難訓練も年2回実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			更新研修の実施の必要あり。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練に地域の方に参加いただき、協力をお願いをしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の状態は家族へ報告するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕バイタルチェックの実施。記録により職員に情報伝達をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホーム管理とし、毎食後手渡しし、服薬確認を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを食べていただくよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を毎食確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種は毎年実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花や置物を飾るなど行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るなどは行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、ベランダではベンチを置いたりゆっくりできる場を作るようにはしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけなじみの物を持ち込んでいただくようお願いしている。		もっと居心地のよい場所にしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度、湿度には気をつけるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分には手すりを設置するなどしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今の個々の能力を見極め、できないところの援助を行うようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜を作ったり、花壇に花を植えたりしている。また中庭には自由に出入りしてもらうようにしている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ 高陽


評価年月日 平成21年4月25日

評価年月日 平成 21 年 4 月 25 日

記入者 職 ホーム長 氏名 折本卓司（高陽）

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高陽2の理念：笑いがあって、心があって、安心できる介護をしよう、喜びと笑いを共有しようという理念をつくっている	理念が実現できるよう、定期的に振り返りを行いたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間での理念の共有がまだできていない状況	会議の時などに理念もとにした話し合いを行いたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域行事などへの参加が少ない状況	運動会、夏祭りなどへの参加を行い、地域の中で暮らしている部分をアピールしたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑仕事をしている方にねぎらいの声掛け、あいさつなど積極的にしている	地域の方とのコミュニケーションをとって行く中でつながりを徐々に深めていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋季大祭の参加、とんどなど参加している	今まで以上に、町内会の行事に参加していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム運営のみで地域の方への配慮には至っていない状況		地域貢献はできないか今後検討していく
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々で自己評価を実施しているが、課題をもとに話し合いをするにはいたっていない		今回の自己評価ででてきた課題を、今後の運営に活かしたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価への取り組みの報告や、話し合いはしていない。		運営推進会議でも報告・話し合いをしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議以外では、なかなか行き来する機会がない。		行き来する機会を作りたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見人制度など職員は理解できていない状況		まずは職員が勉強会など行い制度の理解を進めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	制度の理解はできていない状況		講習会への参加や、資料などでスタッフ同士、共有していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	口頭、文書での説明を行っている	どのようにすればより理解、納得していただけるか今後も検討する
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご自分の気持ち(意見)を言えるよう、共に過ごす雰囲気を作っている	スタッフ個々が入居者と話す機会をさらに多くしていく
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	お便りを毎月出し、病院受診後、状態変化など随時電話連絡している	月1回のひなたぼっこ通信の発行の継続、定期的に電話連絡など行っていきたい
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	本部よりアンケートを実施し意見をいただき、改善に心がけている	面会時などいつでも意見をいただける雰囲気を作っていく
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のミーティングの時、意見を聴き、話し合っている。	働きやすい職場にする為、管理者は現場職員の意見を反映させられるよう努力していかなければいけないと思っている
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	毎月、勤務時間などの話し合いはしている	スタッフの確保が出来たので今後はより利用者、家族にとって有益な動き対応をしていきたい
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	離職者が一時期、多くあったが現在は落ち着いている	なじみの関係を維持できるように、面接など行い職員のメンタル面にも配慮していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修への参加などはできていない状況	グループ内ホームの見学などまず実現しやすい事から実施していきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり行っていない	地域の同業者とのネットワークづくりに努力したい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員体制が5月より取れたので、有給や連休など職員も息抜きができるよう配慮している	休みだけではなく業務におけるストレスの軽減ができればと思う
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の業務状況の報告は行っている	職員の業務に対する思いを形にできるよう、上司、運営者へ働きかけたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前訪問の際、本人とも面談を行い可能な限り聞いている	今後も継続する中で面接技術も磨いていきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前訪問の際、家族とも面談を行い要望、対応など聞いている	今後も継続する中で面接技術も磨いていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時の内容などを検討している、またケアマネジャーがいればその人からも意見も聞いている		相談を受けた内容など管理者だけでなく職員とも一緒に考える機会を増やしたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学から初め、体験入居を実施し入居へ運ぶようにしている		体験入居（宿泊2泊3日）からだけではなく、日中のみホームで過ごしながらか慣れってもらうような導入も検討したい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	提供される、するではなく、一緒に生活する努力をしている		今後も共に生活する中でお互いが学んでいけるよう取り組みたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に負担がかからない程度に、ホームに来ていただけるよう伝え、来所しやすい雰囲気になっている。		家族にできることは今後も依頼し、より本人、家族にとってよいホームにしたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族との関係をよく理解し、双方の想いを考えながら、支援している。		ご本人の希望ばかりを聴くのではなく、ご家族の状況を理解し、双方が良い関係になるよう、助言し話し合っている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係は維持し、職員などとの関係も深めれるようコミュニケーションをはかっている		今後も馴染みの関係、過去、現在両方を維持していきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの関係を認めよい関係にある。利用者同士の関わりを見守っている		連れ立っての買い物、入浴など利用者の意志に今後も添っていききたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後の関わりはないが、他施設へ移った方の様子などは見に行ったりした	ホーム、利用者、家族にとっての必要徴を感じれば今後の関係を維持していきたい
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握はしている	想いや希望を把握し、実現に結び付けたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方など、把握しているがまだまだすべてではない。	ホームで生活していく上で、徐々に聴ける部分があるが、生活歴など家族により深く入居時など聞いていきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体状況を把握し、維持、向上に努めている	日々、ご本人の持てる力を発揮しより毎日が過ごしやすくなるよう今後も取り組んでいきたい
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題やケア方法を家族へは説明している、本人へは説明するというよりもサービス、対応をして反映している	本人が理解してくださる場合には共に検討したい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化あれば見直すが、家族とはなかなか予定が合わないことが多く、電話での相談などになっている	カンファレンスができるケースでは今後行いたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はしっかり行っている		介護計画を見直し、作成する時はより参考にし、反映したい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性があまりない。		現在は、グループホームでの生活の充実に力をいれている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館などは利用しているが地域資源を活用しきれていない		地域資源の情報を入手し、活用していきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームでの生活では、あまり利用がない		現在、あまり利用がない
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	あまりない		運営推進会議などでの機会を活用し、連携できる部分があれば協力したい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添いながら、ホームの主治医への移行に心がけている。		月2回の往診を喜ばれ、ホームの主治医を選ばれる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームのかかりつけ医を持っている。(内科)		いつでも、相談・受診していただけるよう、密の連絡をとり、支援している
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師を採用している		週1回の勤務ではあるが、今後も利用者、職員にとって良い存在であり続けてもらいたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療連携をとり、主治医の指示のもと協働している。		主治医が入院施設を持たないが、医療連携をとり速やかに安心して入院・退院できるよう連携している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・主治医と入居時より話し合い・スタッフとも話し合い共有している		家族の希望や想いを考慮しながら、月1回のミーティングの時に話し合い、主治医の意向を踏まえて日々方針を共有している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に対するホームでの検討は行っているが、準備は行っていない		ターミナルケアについてより勉強していきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の際は介護情報の提供は行っているが、転居先の職員とのコミュニケーションは不足		今後は転居先の職員とも面談しより本人さんのこれまでの経過を大切にもらえるよう努力したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛け、対応には注意している	今後も継続したい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を表せるような雰囲気になる様努力している。	本人がご自分の意見が言えるよう、選択する機会が多くなるよう努力したい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースで生活できるよう支援している。	その日の希望や、体調に合わせた生活を過ごし、レクリエーション行事にも力を入れたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	体制が整っていない時期は施設訪問美容院を利用	体制が整っている時は馴染みの美容室などの利用をしたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理・食事の準備・片付けまですべて、一緒にしている。	毎日の生活の中で、食事は楽しみの一つであるので、楽しく・美味しく食べていただけるよう努力している、行事食など
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望を聞いたり、一緒にチラシをみながらどのようなものに興味を示されるかは見ている	嗜好をより反映できるよう努力したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の持てる力を出せるよう、支援している。		排泄は時間誘導ではなく、その日の状態で、個々人の状態を観察し、声掛け・誘導している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる範囲で努力している		毎日入浴をできる限り維持したい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や毎日の状態を考慮して、支援している。		入居者によっては起床時間をずらしたりの配慮はしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしに役割があり、楽しみ、気晴らしを支援している。		毎日の生活(調理・掃除・洗濯など)に役割があり、入居者同士協力し合い行っている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布は持っておられるが使ってはいない		可能な入居者に買い物、外出の際は持ってもらうことから始めたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	極力支援している。		スタッフの人数の許す限り、希望に沿うよう支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の希望を極力実現できるよう支援している。家族にも外出などでできればとお願いと依頼している		家族と一緒にの外出など実現したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時折ある		希望があればしてもらおう
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう、ホームの雰囲気を作っている。		今後も継続したい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、具体的な行為をすべて把握できていない		今後も勉強会を開き、身体拘束をしないケアに取り組みたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は十分理解している。		できる範囲、なくしていきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全の配慮を心懸けている。		目配り・気配りをケアの基本にし、安全には十分努力している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危ないものを、注意しつつ、家庭の雰囲気が出るよう工夫している。		ホーム内の物の設置は入居者の動きを想定している。また変更もしている
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒などへは対策配慮をしている		より深く知識、対応を見に付けることが必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではない。		5月に実施した
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、研修を受けた		地域の人との連携をもっともっととり災害対策をとっていききたい。防火訓練は実施
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒、急変のリスクに関しては話をしている		面談の機会を増やし理解をより求めていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を早期発見できるよう、目配り、気配りを怠らないようにしている		小さなことでも気付きは記録し、情報の共有化をしたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解するよう努力している		処方箋などがすぐ見れるよう配置場所の変更などおこなった
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防に心がけ、主治医をととも連携している		水分量の把握、増加に力を入れている
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛け、必要な方には介助を行っている		毎食後、歯磨きの声かけ・介助を施行し、洗浄剤も使用している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェックし実施している		水分不足による弊害を理解し、一日の水分量を意識し、調節している
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防の取り決めはある		取り決めはあるので、周知徹底していきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理は充分に行っている。		入居者の洗った食器の2度洗い、乾燥機の使用、ペーパータオルの使用などできることはしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	天気の良い日はオープンにしている		花を植えたり、ウエルカムボードを作ったり配慮はしている
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りや、写真掲示など行い和やかな空間作りをおこなっている		心がやすまるBGMをかけたり、昔の曲を流したりし情緒の安定に努力している
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所作りを工夫している。		いろいろなところにベンチを置いたりし気軽に座れるよう配慮している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたものなどを持ち込んでもらったりし居心地よく過ごせるよう工夫している。		バースデイカード、写真、作品なども飾っている
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々人の希望に沿った換気・空調にしている。訴えが来ない方には職員が配慮している		エアコンを入れる方・入れない方、風が気になる方などその方のご希望に添えるよう配慮している。また湿度の管理の為、濡れタオルなども冬季は使用している
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全が確保されるよう、手すり、椅子を配置し視界もよくしている		介護用品だけにたよらず、その方にあった移動手段なども考案している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人のできる能力を失わないよう何ができるか、できないか判断しそのことをスタッフ間で共有しようと努力している		下膳、配膳などできることはしてもらっている
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園、花壇、選択干し場など活用している		テラスに椅子、テーブルを設置し自由にお茶を飲んだり、くつろいだり出来るようにしている、自由に外の空気を感じられる場所を提供しようとしている